

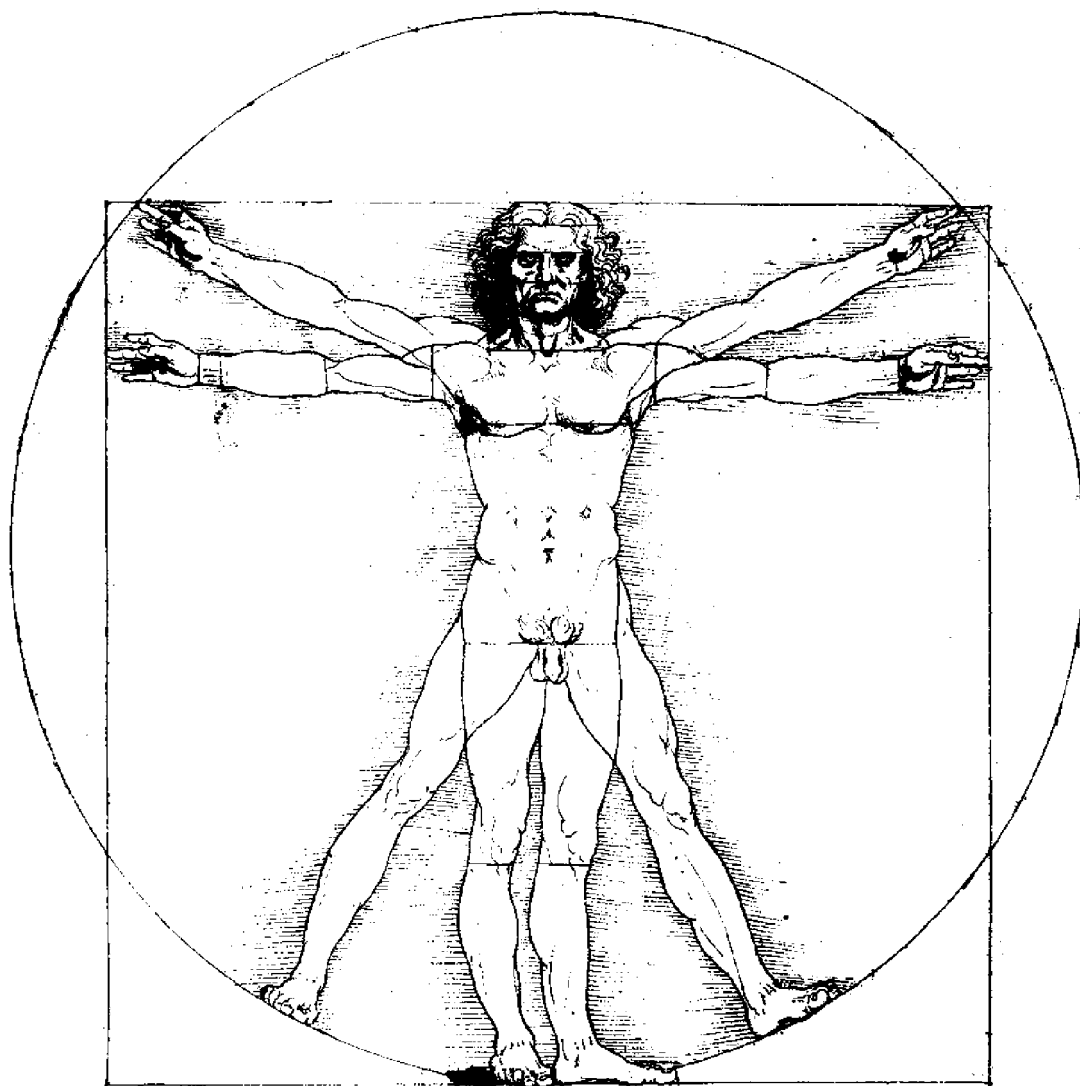
ISHIN

医心

隔月刊・無料配布

2025.5

No.105



自己免疫疾患の
未来を変える！

富山大学学術研究部医学系内科学第一講座
教授

加藤 将

地域医療を守る！
その一心で再建を決意

医療法人社団 持木会
理事長

持木 大

赤ちゃんから高齢者まで
医療と思い、まるごと引き受けます。

ごちゃまるクリニック
院長

副院長

小浦 友行/小浦 詩

CONTENTS

04 自己免疫疾患の未来を変える！

富山大学学術研究部医学系内科学第一講座
教授

加藤 将

12 地域医療を守る！
その一心で再建を決意

医療法人社団 持木会
理事長

持木 大

21 ファイネスの
お聞かせください、ドクター！
DOCTOR'S VOICE

砺波ゆり皮ふ科 院長

山本 由理

22 赤ちゃんから高齢者まで
医療と思い、まるごと引き受けます。

ごちゃまるクリニック

院長 小浦 友行 副院長 小浦 詩



STAFF

Editor 坂口俊克
Writer 上乗繁能／大廣 涼
Photographer 藤森祐治
Designer 吉田真人／西村恭子

発行／NPO法人 学産プロジェクト
〒920-0213
石川県金沢市大河南町東55番3号
TEL 076-203-6613
e-mail: info@project-ishin.net

「建物の主治医としての自覚」 —これが、みづほのこだわりです。



いかわ皮膚科クリニック様



きのした内科・循環器内科クリニック様



けやきクリニック様(増築)



にし内科・呼吸器クリニック様



ののいちメディカルクリニック様



匠歯科医院様

独立の夢、応援します。

培ってきた豊富な経験とノウハウを基に
医療経営コンサルタントによる開業支援

私たちみづほ工業は、医療建築分野での
提案営業スタイルを確立し、
病医院や福祉施設の開業を支援しています。
これまで培った豊富なノウハウを基に診療圏調査、
土地探し、施設提案、事業運営までを
専門スタッフが丁寧にサポート（無償）いたします。
多くのドクターが抱かれている開業についての
不安や不明な点を和らげ自信を持って開業へと
進んでいただけるお手伝いができればと考えております。

医院・歯科医院開業個別相談会

日時 ● 令和7年6月21日(土)・22日(日)
10:00～17:00

会場 ● みづほ工業(株)本社(八日市)

詳しくはHPをご覧ください。

<https://www.mizuho-co.com/medical/>

申込QRコード



木造の新しい選択肢。

店舗・事務所・倉庫・医療福祉施設・保育園・アパートなど鉄骨造が一般的だった大規模建築を木造で。

木造建築の新しい選択肢、「テクノストラクチャー」。木造でありながら柱の少ない開放的な大空間を、「木」と「鉄」のハイブリッド複合梁「テクノビーム」で3階建、延床面積3,000㎡まで対応可能です。みづほ工業は建築物の木造化を推進し、地球温暖化の防止や循環型社会の形成、そしてカーボンニュートラルの実現に貢献していきます。

新しい建設サービス業の展開
mizuho みづほ工業株式会社

本社／〒921-8064 金沢市八日市丁11562番地 TEL. 076-240-7010(代) ホームページ／<https://www.mizuho-co.com>

建築コストの削減
高い耐震性と耐久性
設計自由度の高さ

建築工期の短縮
建物の軽量化
大空間の木造建築

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



パナソニック耐震工法 テクノストラクチャー

医療施設

クリニック

ドクター

薬剤師

看護師

地域包括ケアシステムをサポート

ICCの情報技術「患者情報共有ネットワーク」は
地域包括ケアシステムに関わるすべての方のニーズに応える
ソリューションとして、さまざまな医療の現場で生かされています。

私たちはITで万全のネットワークを築いていきます。

栄養士

介護士

ソーシャルワーカー

ケアマネジャー

民生委員

地域の方々

在宅高齢者施設

民間支援相談室



Link The Medical Information

ITによる医療情報ネットワーク

icc 株式会社
石川コンピュータ・センター

医療システム本部 / 〒924-0833 石川県白山市向島町1100番地
TEL (076) 268-8315 (代) FAX (076) 268-7145
医療向けソリューション <https://www.icc.co.jp/medical/>

■本社 / 〒920-0398 金沢市無量寺町ハ6番地1
TEL (076) 268-8311 (大代表)
<https://www.icc.co.jp/>

■支社 / 東京・名古屋
■支店 / 大阪
■営業所 / 富山・福井

KATO MASARU

自己免疫疾患の 未来を変える！

2024 年秋、富山大学附属病院第一内科にリウマチ・膠原病が専門の加藤将教授が就任した。

北陸三県に新潟、長野、岐阜、山梨、静岡、愛知、三重を加えた中部10 県の大学病院で、講座の主任教授をリウマチ・膠原病から輩出するのは稀だ。

糖尿病代謝・内分泌、呼吸器を包括する第一内科の強み、特徴などについて、加藤教授に聞いた。

劇的に変わった治療法

富山大学附属病院の第一内科は、大きく3つの診療領域を包括する。糖尿病や代謝関連疾患などを扱う糖尿病代謝・内分泌内科、肺がん、喘息、びまん性肺疾患などを担当する呼吸器内科、そして加藤将教授が専門とするリウマチ・膠原病内科である。

なかでも特徴的なのは、大学を代表する第一内科の主任教授が、リウマチ・膠原病内科から選ばれていることだ。加藤教授は、富山市生まれで前任地は北海道大学。富山大学学術研究部医学系内科学第一講座の教授公募に自ら名乗りをあげ、2024年10月、正式にその座についた。リウマチ・膠原病内科出身の教授になった経緯を振り返る。「日本リウマチ学会では、新潟県から三重県までの10県（新潟、富山、石川、福井、長野、岐阜、山梨、静岡、愛知、三重の各県）が中部支部、または中部リウマチ学会としてカテゴライズされています。その中で、リウマチ・膠原病が専門の医師が、講座や教室の主任教授になっているところは、そんなに多くありません。過去を遡っても藤田医科大学、三重大学に次いで、今回の私の就任でようやく3人目だと思います。北陸においても自己免疫疾患である関節リウマチや膠原病は、これまで対象患者が少なく、

ると、感染症のリスクが減るといわれます。感染症が減るのは良いことですが、免疫細胞にとっては必ずしも良いとは言えません。免疫細胞は本来、異物であるウイルスや細菌などと闘いそれらを排除しています。その闘う相手がいなくなることで、免疫細胞は常に活動しますから、別の対象を探します。そのときに、例えば環境変化とか腸内細菌の乱れなどがあると、自身の細胞や臓器に異物ではないかと矛先を向けてしまうのです。結果、自分で自分を傷つける、自己免疫疾患につながる可能性があります」さらに、自己免疫疾患が増えるきっかけとして、加藤教授は「新型コロナウイルス

関節リウマチは整形外科で診療したり、治療法も主にグルココルチコイド（ステロイド）が中心でした。どちらかといえばマイナーな診療科で、治療も遅れていたと思います」しかし最近はかなり様相が変わり、メジャーな診療科の一つになっている。きっかけは、関節リウマチの治療環境が劇的に変わったことだ。今から15、6年前に関節リウマチの治療薬としてレミケード、エンブレル、ヒュミラ、アクテムラ、オレンシアといった生物学的製剤が登場し、これまでの常識を大きく覆した。

「関節リウマチは、全身の病気で関節の腫れや痛み、こわばりなどが主な症状ですが、それが生物学的製剤によって劇的に改善し、日常生活や仕事も普通にできるようになりました。救いたくても救えなかった患者さんが、薬物治療によつて改善し、普通の人と変わらない生活を送れるようになったのです」

以来、診療は大きく変わり、新薬も次つぎに開発され、リウマチ・膠原病のメインは内科で、薬物治療に大きくシフトした。加藤教授は、今後、富山大学附属病院の第一内科が「リウマチ・膠原病など自己免疫疾患の治療と、予防を含めた未来予想図を先取りできる診療拠点にしたい」と意欲を燃やす。

感染症がある」と指摘する。新型コロナウイルスが私たちの体に侵入すると免疫反応が起こり、ウイルスが排除される。しかし同時に、免疫がいわば“かき乱される”ことで、自己免疫疾患を発症するケースもあるというのだ。

「新型コロナウイルスの治療は、第一段階としてステロイド、第二段階として生物学的製剤を使います。これはまさにリウマチ・膠原病の治療です。ウイルスだけに免疫の矛先が向けばいいのですが、重症化するのはい、言い換えればウイルス感染をきっかけに自己免疫疾患を発症しているともいえます。とくに肺組織を痛めてしまう場合が多くみられます。結果、間質性肺疾患の状態になってしまふ。今後、仮に有効な抗ウイルス薬が開発されたとしても、おそらくステロイドや生物学的製剤を使う治療は、これから変わらないと思います」

膠原病の救命率が向上

一定の重症度になったら免疫を抑える治療に切り替える。それは今や、治療ガイドラインにも表記されているが、新型コロナウイルス感染症は当初はまだ世界的にも純粹な感染症として認識されていた。

加藤教授によれば、2020年のはじめ

コロナ禍でリウマチが増える!?

近年、関節リウマチを含む自己免疫疾患の患者数が増える傾向にあり、リウマチ・膠原病内科は、他の疾患との関係も含めて内科の重要な診療分野になっている。自己免疫疾患が増える要因の一つに、加藤教授は「衛生環境が良くなり、感染症のリスクが低くなった」ことをあげる。

「断定はできませんが、大雑把に言うと世の中の環境がきれいになって衛生的にな



に、海外の専門家が新型コロナウイルスに罹った患者の肺炎のCT画像をみて「膠原病である皮膚筋炎の間質性肺疾患の画像に似ていることから、皮膚筋炎と似た治療をした方がいいのではないか」と提唱、それが新型コロナウイルス感染症の治療法につながったと考えられている。

「感染症を抑える抗ウイルス薬の開発ではなく、皮膚筋炎と同じ免疫を抑える治療に目をつけたことが、ある意味画期的」と、加藤教授は力説する。というのも、皮膚筋炎は間質性肺疾患を合併し、亡くなるケースが多く見られたからだ。

教授によると、今から20年前までリウマチ・膠原病治療は、ステロイドを使うのが支配的だったという。しかしステロイドは、感染、糖尿病、骨粗鬆症、眼障害などの副作用を伴う恐れがある。一方で、膠原病である皮膚筋炎を発症したり、間質性肺疾患へと進行すると「死の宣告」と言われるほど、厳しい疾患と考えられてきた。

それが生物学的製剤の出現以来、免疫抑制剤の使い方も洗練され、リウマチ・膠原病は「治る」病気へと変わっていく。そこには診断技術の進歩も大きく貢献しているという。

「2016年、抗MDA5抗体を使った診断技術が日本の医学者によって開発され

たのも大きいと思います。私たちは、皮膚筋炎の患者さんには、抗MDA5抗体を測定します。この検査の陽性反応は、間質性肺疾患が急速に悪化する可能性が高いことを示すバイオマーカーです。陽性の場合の治療は、免疫抑制剤を最初から複数組み合わせさせて使います。私が研修医になりたての頃は、免疫抑制剤は副作用があるので順番に使うのが基本でしたが、今はこうした診断技術の進歩により、早期から強力な免疫抑制療法を行い、結果、皮膚筋炎の救命率が大きく向上しました」

富山モデルを全国発信

第一内科では、関節リウマチや自己免疫疾患の治療だけでなく、たとえば関節リウマチが疑われる患者については、所見を明らかにして早期に介入し、経過を観察、追跡し、研究計画を立てるなど、予防にも力を入れはじめている。

これは「リウマチ・膠原病の未病段階に介入し、また、新薬開発と治療ガイドラインのタイムラグを埋める試み」（加藤教授）として注目されているものだ。

リウマチ・膠原病内科、糖尿病代謝・内分泌内科、呼吸器内科を含めて、富山大学附属病院第一内科の強みとして今後どのよ

うに活かしていくのか？

「第一内科の特徴は、全身疾患を総合的に診療できることです。糖尿病代謝・内分泌疾患はその際たるものですし、臨床・研究ともに実績があります。第一内科の強みの一つですから、これを今後も継続していきたいと考えています。呼吸器疾患の分野では、肺がんの治療が、オプジーボなどに代表される免疫チェックポイント阻害剤の登場でここ数年大きく進化してきています。免疫治療が受けられることはもちろんですが、呼吸器内科ならではの息の詰まるのが気管支鏡検査です。肺の組織を採取して、よりミクロレベルの診断が可能な検査です。これを膠原病に伴う肺病変に対して、呼吸器内科と一体的に診療することで、より質の高い医療が提供できます。第一内科には各領域の専門家が揃っており、常に最良の診療が行えるよう万全の体制を整えたいと思っています」

リウマチ・膠原病の分野で、加藤教授が今、強く推進しているのは、予防計画を立てて自己免疫疾患を管理していく未来医療への取り組みだ。一つは、先に紹介した未病の段階から関節リウマチの可能性がある患者に早期介入し、予防計画を立てながら普通の暮らしができる未来予想図を示すことだ。

もう一つは、全身性エリテマトーデスという疾患の、新薬開発とガイドラインとのタイムラグを埋めるための未来予想図を構築することにある。

「全身性エリトマトーデスは、免疫の異常によって全身の臓器に炎症や障害を起こす自己免疫疾患で、膠原病のひとつです。かつて全身性エリトマトーデスを発症した患者さんのなかには腎炎を合併した人が多くいたのですが、最近では腎炎より皮膚の発疹や関節炎、口内炎など粘膜病変が目立つようになっています。この分野は今、新薬開発が非常に盛んに行われていますが、この病気の治療のガイドラインに盛り込まれるには1年〜2年のタイムラグがあります。その間、この病気に苦しむ患者さんたちの治療が遅れたりしないように、富山大学附属病院では治験などに携わり新しい治療を先取りしています。また、治験に携わることに

よってどんな薬が認可されるかなどの情報や感覚も掴めると考えています。その未来予想図を、富山大学モデルとして全国発信していこうと考えています」



救命から、自己免疫疾患を管理する未来医療へ。加藤教授が率いる第一内科の今後の取り組みに注目したい。

Profile

加藤 将（かとう まさる）

富山大学学術研究部医学系内科学第一講座 教授

【略歴】

2003年北海道大学医学部卒業、2011年北海道大学大学院医学研究科修了。2012年スイスチューリッヒ大学病院リウマチ科研究員、2015年北海道大学病院内科II助教、2021年同講師を経て、2024年10月より現職。

主な研究テーマは関節リウマチの病態、リウマチ性疾患における血栓、血管病変。

購入から15年以内で このような 医療機器 はございませんか？

日本で使用されなくなった内視鏡・エコー・CR読取り装置・眼科機器・CT/MRI装置は、
多くの発展途上国で必要とされています。



弊社が買取りいたします。

各社リース更新・満了・返却機器もご相談ください。

らくらく買取



QRコードを
読み込んでください

株式会社アメニティ

 **0120-859-957**

東京都千代田区神田駿河台 2-1-20

営業所

旭川・札幌・帯広・青森・秋田・盛岡・山形・仙台・郡山・高崎・水戸・
千葉・さいたま・横浜・新潟・長野・富山・金沢・静岡・浜松・名古屋・
新大阪・京都・岡山・広島・高松・松山・福岡・鹿児島

<https://www.amenity-ss.co.jp/>

「アメニティセット」および「アメニティサポートシステム」は株式会社アメニティの登録商標です。



アメニティ
レンタルの
ご案内

24時間ご利用可能なので安心

清潔な院内・施設内環境を保てます (院内感染の防止)

看護・介護職員さま、事務職員さまの業務軽減 (人員不足の解消など)

患者さまと来院された方とを区別できます (防犯上の管理)

緊急入院や災害時にも利用可能です

入院も退院も、 手間いらず。

安心しておまかせいただける理由

1,403施設 約20万床の採用実績

Pマーク取得という信頼性

ISO取得という信用性

導入事例の見学も可能

アフターサポートも万全



地域医療を守る！ その一心で**再建**を決意

医療法人社団 持木会

柳田温泉病院 / 柳田温泉病院介護医療院



能登半島地震で被災して1年半、病院の再建に乗り出した医療機関がある。石川県鳳珠郡能登町にある柳田温泉病院だ。今年3月半ば、ほぼ全壊の判定を受けた建物の公費解体が始まり、ようやく再生への一歩を踏み出した。転院を余儀なくされた患者や入居者、職員にも希望の光が差し込んでいる。

奥能登の地域医療を守る、民間病院の再出発を追った。

時が止まったままの病院

2025年3月11日、金沢からのと里山海道を一路、能登町に向かう。石川県地方は朝から曇り空だった。日中の気温は15度近くに上がり、午後には晴れ間が覗くという。

出発から1時間余り、横田付近を過ぎると傷ついた道路と頻繁に遭遇する。修復工事は進んでいるとはいえ、土嚢が積まれた車道にさしかかる度に減速を強いられる。

地震からすでに1年数カ月。能登に至る道路状況は、まだ復興にはほど遠い。目的地まで通常なら金沢から2時間余りの距離だが、30分ほど余分にかかってしまった。

柳田温泉病院は、能登町の旧柳田地区

にある。「柳田温泉病院」と表示された看板を曲がり、坂道を登り切ると、5階建ての病院が姿を現わした。

建物の外観は、かろうじて体裁を保っている。しかしよく見ると、地盤が陥没していたり、壁はいたるところにヒビが入り、ところどころ剥がれ落ちているのが目に付く。地震の大きさを、改めて目の当たりにする思いだった。

周りは、木々や緑に囲まれた静かな環境だ。温泉が引かれていたというから、震災前までは、入所者がゆつくり心と体を休め、のんびり時間を過ごしていたのであろう。

日陰には、降り積もった雪がまだ残っている。人気がない病院を、冷え込んだ空気が包みこんでいた。

柳田温泉病院事務長の野村清一さんに

死と隣り合わせの避難

地震が起きた当時、院内には34人の入院患者と、介護医療院の入所者が11人いたそう。入院患者は1階の療養病棟なので比較的移動はしやすい。問題は介護医療院だった。事務長の野村さんが振り返る。

「介護医療院の被害が大きく、倒壊の恐れもあったので、とにかく入所者を一刻も早く安全な場所へ避難しなければなりません。とりあえず1階フロアに集め

熱いものが込み上げる

オーナーでもある持木大理事長は、一旦は「閉鎖することも頭をよぎった」という。しかし被災から2週間後、残った全職員を前に、持木理事長は「病院は必ず再建します」と力強く宣言した。その時の心境はどうだったのか？

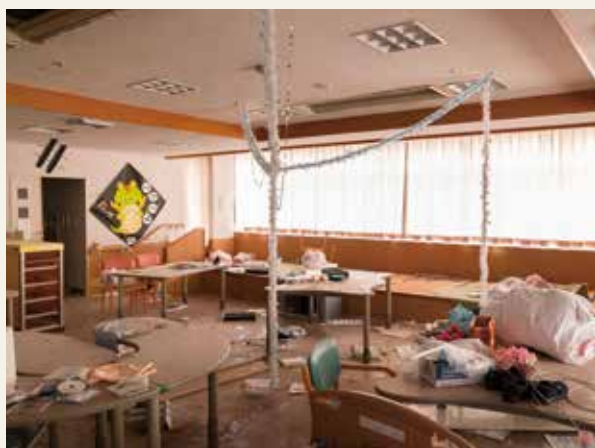
「震災当初は、何も考えられませんでした。日が経つにつれ、患者さんや入所者さん、ご家族から『なんとか続けてほしい』との声をたくさんいただきました。近隣の先生からも『この病院は地域に必要だ』との励ましもありました。何より『この場所に戻ってきたい』という患者さんやご家族の言葉に、私自身がとても勇気づけられました。同じ場所では無理でも、違うところで、規模を小さくしてでも病院は続けよう。その気持ちで、職員にできるだけ早く伝えたくたのです」

職員全員が被災し、住まいも生活もままならない中、集まった人たちは互いに無事を確認しあった。町外への避難を余儀なくされ、その場に居合わせない人や離職せざるを得ない人もいた。それと思うと、持木理事長は次の言葉に詰まったという。

「(被災して) 自分自身の生活さえ大変



野村 清一 (のむら きよひと)
柳田温泉病院 事務長



持木 大 (もちき ゆたか)
医療法人社団 持木会 理事長



矢野 健太郎 (やの けんたろう)
株式会社クオンヘルスケア 専務取締役



なのに、苦勞を厭わず、病院や患者さん、入所者さんたちのために頑張ってくれている職員の顔を見たら、熱いものが込み上げました。この人たちのためにもなんとかして再建する。その思いを改めて強くしました」

病院再開までは、険しい道のりが続くだろう。しかし一方で、震災から1ヵ月後には建物が半壊以上と判定され「公費解体」が決まり、持木理事長の決断を受けて支援者や応援のメッセージも数多く届いた。

地元の公立病院が「救世主」

なかでも、持木理事長の決断の大きな後ろ盾になったのが、公立宇出津総合病院からの予期せぬ「お誘い」だった。

「2月のはじめに事務の方から連絡があり、5階フロアが空いていて『稼働させていない状態』なので利用されませんかとお話をいただいたのです。願ってもないお話でした。ただ、公立病院の中に入って私立病院が事業できるのか率直にお尋ねしました。厚生労働省に細かいところを含めて確認しているとのこと、最終的にOKが出れば、当方としては是非ともお願いしたいと。転院された入所

者の中には、当院に戻りたいとおっしゃる方も多くいました。スタッフも復帰させることができますし、そうした方々をなんとか戻してあげられたら大変助かります。最終的に、介護医療院の入所者43名を引き受けてもらえました。この話がなかったら、再建はもっと遅れていたと思います」

地域の公立病院が「救世主」に名乗りをあげた格好だが、もともと両者は同じ能登町宇出津のまちなか、それも向かい同士の距離にある。病診連携など関係も良好で、持木理事長の父親（柳田温泉病院、持木メディカルクリニックの創設者）の代から、奥能登の地域医療を共に守ってきた思いが医療者間で共有されている。そのつながりは、患者や地域にも浸透しており、病院再建を決断する後押しになったともいえるよう。

「能登町と珠洲市、輪島市を含めて、奥能登に設備が整った民間の総合病院は、当院しかありません。能登町だけではなく珠洲や輪島の公立病院などで治療が終わった患者さんの受け皿として、当院は機能してきました。今回の震災で、能登は高齢化と人口減少がさらに進んだと言われます。そのなかには介護認定が受けられない、医療依存度の高い人たちが

や、奥能登を離れたくない、このまちに住み続けたい人はまだまだたくさんいます。そういう人たちがいる限り、受け皿として今後も役割を果たしていきたいと思っています」

地域のエールを糧に再生へ

とはいえ、病院再建はまだまだ先の話だ。持木理事長は「できるだけ早く再開したい」意向だが、工事が始まってみるとどれくらいの工期や費用がかかるか、まだはつきりつかめない状況だそう。取材当日は、公費解体が始まるまでに荷物の片付けや、医療機器、設備機器、医薬品などの整理、運び出しなどが行われていた。

病院は、特殊な医療機器や医薬品などを扱うことから、その処理は専門業者や指定業者が行う。今回、医療機器の運び出しなどを引き受けた、株式会社クオンヘルスケア（本社／大阪府堺市）の専務取締役である矢野健太郎氏がその役割について言及する。

「柳田温泉病院さんは、地元の医療機器会社さんから紹介を受けました。関西でも大きな病院の閉院や移転などで医療機器の買い取りなどはこれまでも行っ

ています。日本の医療機器は、海外からの引き合いが多く、欲しがる医療機関は少なくありません。そうした医療機器を、弊社が仲介しできるだけ高く買い取らせていただくことで、少しでも再建の費用にお役立てればとの思いがありました。CTやレントゲン機器の撤去などを行う業者さんのお付き合いもありますので、運び出しにかかる全体のコストダウンも協力できるのではないかと。そんな思いからお手伝いさせていただきました」

柳田温泉病院にとっては、こうした専門業者と出会えたことも再建を前に進める力になった。新病院の完成目処は、2年後の2027年4月。地域の期待と支援者のあたたかいエールを糧に、柳田温泉病院は再生の道を歩み始めている。

健やかな未来のために。

真のソリューションを実現する
価値あるサポート。

丸文通商は、医用機器と科学機器の供給を通じて、人々の健康維持と新しい産業の創造に貢献しています。取り扱いメーカーとの緊密な連携により最新の製品情報をスピーディに提供するとともに、自社のカスタマー・エンジニアによるメンテナンス体制を構築。真のソリューションを実現する価値あるサポートを展開しています。



医用機器部門

各種医用機器・システムの提供はもちろん、マーケティングに基づくアドバイスを行うなど、メディカルコンサルタントとして病院経営全般をサポートしています。



科学機器・産業機器部門

絶えまなく技術革新を続ける科学機器の最新情報を幅広く収集しながら、ユーザーニーズに応じた、最適なマシン・システムをコーディネートしています。



技術・サービス部門

メンテナンスや修理などのアフターケアによって、ユーザーをサポートするとともに、オリジナル製品や各種システムの開発にも取り組んでいます。

DCPソリューションは
豊富な経験とネットワークを持つ
先生方のよきパートナーとして
開業支援サービスを提供しています。

ドラッグストア併設で 理想の開業を！

DCPソリューションの提供サービス

経営理念、診療方針の作成
開業までのスケジュール作成
開業地の選定、診療圏分析
事業計画の策定
融資の打診及び交渉
設計、内装業者紹介及びアドバイス
医療機器選定
税理士、公認会計士の紹介
広告相談
従業員募集、採用、教育の補助
開設手続き
開業後の経営支援、拡大展開
継承支援



明日の健康と新産業創造のパートナー
丸文通商株式会社

<https://www.marubun-tsusyo.co.jp/>

金沢支店

〒920-0385 石川県金沢市松島一丁目40番地
TEL 076-269-1880 / FAX 076-269-2522

富山支店

〒939-8221 富山県富山市八日町247番地41
TEL 076-429-7190 / FAX 076-429-3277

福井支店

〒918-8236 福井県福井市和田中二丁目907番地
TEL 0776-23-8070 / FAX 0776-23-9500

DCP Solution **スギ薬局グループ**

0120-911-545

平日(土曜・日曜・祝日を除く)の9時00分～18時00分

拠 点

関東エリア(本社) ●東京都千代田区鍛冶町一丁目7番6号
ヒルトップ神田ビル
中部エリア ●愛知県大府市横根町新江62番地の1
関西エリア ●大阪府大阪市淀川区宮原一丁目2番4号
新大阪第5ドイビル13階
北陸・長野エリア ●石川県金沢市藤江北4丁目280番地

開業の事例や
先生方の声が
ご覧頂けます



<https://dcp-sol.com/article/docvoice/>

富山県砺波市中神

砺波ゆり皮ふ科

一般皮膚科・小児皮膚科・美容皮膚科



山本 由理 院長

【略歴】

2006年 四天王寺高校(大阪)卒業
2012年 金沢大学医学部卒業
2014年 社会保険中京病院(愛知)初期臨床研修了
金沢大学附属病院皮膚科
2015年 石川県立中央病院皮膚科
2016年 小松市民病院皮膚科
2018年 金沢医療センター皮膚科
砺波総合病院皮膚科 医員
2021年 砺波総合病院皮膚科 医長
2025年 砺波ゆり皮ふ科 開業

「ちょっと皮ふ科へ」。
気軽に行けるクリニックに



地域ニーズに応え、
2025年4月開業

2025年4月、アレルギー性疾患やアトピー性皮膚炎、蕁麻疹などを診療する地域密着型の砺波ゆり皮ふ科が新たに誕生した。クリニックのある砺波市周辺エリアでは近年、保険診療を担う皮膚科医院が減少しており、地域ニーズに応えるため、市立砺波総合病院などで研鑽を積んだ山本由理院長が立ち上げた。クリニック内は淡いクリーム色を基調に、木製のカウンターなどをしつらえたやわらかな雰囲気。アニマルを描いた壁紙がかわいいキッズルームや授乳室も備えている。皮膚科専門医の山本院長を含め7人のスタッフで、赤ちゃんからお年寄りまで幅広い年齢層の皮膚の疾患や悩みに対応している。

一般皮膚科・小児皮膚科に加え、美容皮膚科領域の診療も特色だ。「皮膚科医として歩む中で、化粧品による日常のケアがいかに大切かも認識しています。敏感肌用や授乳期に使える化粧水など、お肌を観察した上でご案内します」と、山本院長は言葉に力を込める。

医療設備も充実しており、難治性のアトピー、乾癬、円形脱毛症等

病態で治療法はさまざま
一人ひとりに合った診療を

皮膚科専門医として診療に力を注ぐ山本院長が、この道を志した背景には、子どものころの経験が深くかかわっている。

「小学4年生くらいから肌の悩みを抱えていました。高校生のとき、同級生のお母さんが医師で、その診療所で背中のにきびを治してもらったんです。子育てしながら働くその姿がかっこよく、私が皮膚科医を目指すきっかけになりました」

こう話す山本院長は金沢大学医学部で学んだ後、石川・富山で地域医療の最前線に立ち、スキルを磨き続けてきた。さらに、現在は3人のお子さんを育てるママでもある。「私が高校生のときにあこがれたように、子どもたちにも医師として働く姿を見てもらいたいですね」と優しく笑う。

そんな山本院長が旗振り役となつて目指すのは、地域の人たちが気軽に足を運べるクリニックだ。「皮膚科領域では、病態や肌に合わせて処方するお薬は変わり、個別に数種類を調合することもあります。一人ひとりに合ったオーダーメイドの診療がとても大切です。だからこそ、患者さまときちんと向き合いたいと考えています」

山本院長はこう話し、「少しでも気になることがあれば来院してほしい」と呼びかける。暮らしにとけ込むクリニックとして、砺波ゆり皮ふ科は、地域とともに歩み続けていく。



健やかな未来に、潤いを。

主なソリューション内容

- ・新規開業・開局支援
- ・医薬分業支援
- ・経営コンサルティング(事業承継、etc.)
- ・システム・医療機器コンサルティング
- ・各種研修会、医薬経営情報配信サービス

総合窓口 本社 ソリューション部
TEL:076-239-0625
E-mail: solution@jp-finese.com



医薬品卸売業

Finese 株式会社 ファイネス

[本社／金沢支店] 〒920-0295 石川県金沢市大浦町ハ55番地 TEL 076(239)0032 FAX 076(239)0092
[支店] 小松支店・七尾支店・富山支店・高岡支店・黒部支店・福井支店・敦賀支店・名古屋支店
[営業所] 高山営業所・三重営業所・豊橋営業所



ごちゃまる クリニック

院長 小浦 友行
副院長 小浦 詩

2024年1月の能登半島地震、9月の集中豪雨。二重災害で「心が折れた」と明かす被災者は少なくない。輪島市にある「ごちゃまるクリニック」の小浦友行院長もそのひとりだ。失意の中で地域の医療、看護、生活支援と向き合い、患者は世代の隔てなくまるごと引き受けてきた。地域医療と能登の人びとを守り続ける小浦院長の人間性の一端に触れた。

開業3年足らずで二度の災害

2024年1月1日夕刻、「ゴーツ」という不気味な轟音とともに激震が走った。山が崩れ、なぎ倒された大木と土石が集落をのみ込む。飛び散る屋根瓦、ドミノ倒しのように倒壊する家屋。道路は陥没し、亀裂が走り、大規模火災が輪島の朝市通りを焼き尽くした。

その衝撃からやっとの思いで抜け出し、生活再建に向けて歩み始めた同年9月、今度は未曾有の豪雨が被災地を襲う。輪島市や珠洲市では、まちが一面水に浸かり、家や車が流された。二度の災害で全てを失った被災者は、先が見通せない絶望感に打ちひしがれた。

「豪雨被害で、心が折れた人は多いと思います。いつてみれば奮起ができない状態です。精神的に折れたという面では、地震の時とはまた違う喪失感がありました」

「ごちゃまるクリニックの小浦友行院長は、被災者の気持ちをそう代弁する。自らも地震と豪雨被害を受け、今も気持ちを引きずりながら日常を過ごしている。」

「震災でクリニックは使用できなくなり、診療できる状態ではありませんでした。それでも2週間休診しただけで、



赤ちゃんから高齢者まで
医療と思い、まるごと引き受けます。

診療は再開しました。クリニックは、震災から5カ月後にリニューアルして再スタートしますが、今度は豪雨です。床上1メートルの浸水で、また建物を修理しないといけなくなり、私も妻（小児科医）も相当落ち込みました。今いる場所は子どもの集い場だったところですが、皆さんに助けられてなんとか診療はできています。2022年12月に開業してまだ3年足らず。自分のクリニックで診療できたのは1年3カ月ほどしかないんですよ」

同じ敷地内の雑居ビルの一角を間借りして、仮の診療所になっている小浦院長は、複雑な胸中を明かす。クリニックの一階は、いまだ工事中だ。十分な医療機器も整わないまま、災害前の状態に戻すのは限りなく厳しい。それでも、ごちゃまるクリニックをかりつけにする外来患者が、ひっきりなしに訪ねてくる。

「ごちゃまる」と「あふりゅう」

小浦院長は輪島市の出身だ。外来と訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーションを引き受ける現在の診療スタイルは、自身が生まれ育った環境と無縁ではない。

に携わって思ったのは、（患者の）ニーズがあるのに応えられていないことでした。訪問診療の患者さんは、自宅で最後まで過ごせることを望みます。それには24時間365日救急対応し、例えばがんの緩和ケアができて、最後まで家族と過ごせる環境が揃っていることが大切です。過疎地であれば、なおのことそういうニーズに応えられる診療所が必要なのではないか。開業する前から、そう考えていました」

とはいえ在宅に特化するのではなく、全ての年代を対象にした外来診療、生活支援にかかわる相談など、地域ならではの医療ニーズにも幅広く対応する診療所をめざした。

そして、2022年12月に待望の独立を果たす。富山大学時代に知り合った、妻で小児科医の小浦詩さんとの開業だった。「ごちゃまる」のネーミングには、赤ちゃんからお年寄りまで世代にかかわらず診療する「ごちゃまる」と、外来から在宅医療・看護、リハビリ、生活に関する悩みや相談など「まるごと」引き受ける、両方の思いが込められている。



生家は、震災による火災で焼失した朝市通りにあり、子どものころから輪島の海や朝市は身近な存在だった。両親は市内の目貫通りで洋服店を営んでいた。それもあって患者の中には、親の代からの顔見知りも少なくない。

跡取りではあったが、高校時代には「明確に医師をこころざした」ことから、両親はとくに反対はしなかったという。

「当時から、能登は過疎化や少子高齢化が進んでいました。それもあって、将来は赤ちゃんからお年寄りまで診療できる医師になりたいと漠然と考えたのでしよう。初期研修のころに内科や整形外科、小児科、精神科など進路は悩みましたが、人生の大半をいずれ生まれ故郷で過ごすと思ったとき、地域の人たちと向き合っていくのが自然だと。それで直感的に、家庭医や総合診療医のような存在をめざそうと思いました」

地域に根を張り、外来と在宅を中心に全ての患者に寄り添う。そう決めるきっかけは、穴水病院の勤務医時代に訪問診療を経験したことだった。当時を振り返る。

「病院のパートナーとなれるようなタフな在宅医療や在宅ケアを提供する。そう考えて臨んだのですが、訪問診療

『深化』する関わり方

自ら震災と豪雨を経験し、地元の人たちに寄り添ってきた小浦院長は今、日々どんなことを感じているのだろうか？

「プライマリケアの専門性とか、卓越したケアがますます大切になっていると感じます。とくに震災後、地域の人たちが体験したさまざまな場面や背景を知るにつけ、関わり方がますます“深化”してきています。震災で家や仕事を失い、過酷な避難所生活や知らない場所への移住、家族や友人、仲間と離ればなれになるなど、環境が一変した人たちが抱える問題は、メンタルヘルスケアだけで単純に解決できません。ある意味、トラウマをもってしまったがゆえに、そもそも解決などできるのだろうかと思えます。多様な患者さんの思いや体験に、どうやって寄り添っていったらいいか。医療や看護、リハビリといった現実的な対応だけではなく、生活支援などを含めた心の問題として、同じ目線で向き合っていないと、なかなか答えは見出せないと思っています」

医療や看護、介護といったメディカル的な括りだけではなく、その人たち



なればいいと考えています」

子どもの心に寄り添って

一方、院長と同じ問題意識を共有する妻の小浦詩副院長は、小児科医の立場から「わじまティーンラボ」というNPO法人を立ち上げ、こどもの居場所づくりを展開する。なぜ子どもの居場所が必要なのか。小浦副院長が説明する。

「8年前に、富山から輪島に移り住んで改めて感じたのは、診療だけでは気づけないことがたくさんあることです。たとえば小児科外来の大半は、風邪症状や急性期の熱、腹痛などで、基本的には一週間ほどで元気になる場合が多い。でも外来の一部で、頭やお腹が痛い訴えるお子さんと、検査しても重症な病気でもなければ、胃腸炎でもないケースがあります。医療的には大丈夫ですよといっても、なんとなく元気がない、生きづらさを感じているような子どもさんが一定程度います。検査や診療だけではなかなか見えてこない、複合的な思いを抱えている子どもたちに元気になってもうには、何をしてあげたらいいのだろうか。そんなときに、病院の中だけではなく、たくさんの子ど

もたちがいる場の中に、私たちが少しお邪魔させてもらって、なにか要因につながるようなものが発見できないか。そう思って始めたのが「わじまティーンラボ」です。絵本を読んだり、ゲームをしたり、他の子どもたちと遊んだり日々交わる中で、相談に行く場になれたらいいと思って始めたのですが、今ではお母さんたち含めて子どもたちが集まる場になっています」

「ごちゃまるクリニックでは、このほか特定妊婦等支援事業の一つで、妊娠中や産後間もないお母さん、子育て中のお母さんと一緒にランチをしたり、相談や会話をしながら地域のつながりをつくる「はぴまるカフェ」はじめ、春のお茶会や七夕祭りといった地域の交流活動や、月に1回学校を訪問し、保健室カフェ、ラボカフェなどの相談窓口を開いたり、包括的性教育、道徳の授業訪問する取り組みなども行っている。

「地域のあなたとかかわり続け、ともに支え、学び続ける」

このメッセージの中に、総合診療医・小浦友行院長がめざす地域医療への思いが込められている。



院長 小浦 友行

が生まれ育った土地柄や伝統、歴史、文化などを含めて理解をしないと、背負っている心の負担を解きほぐせない。小浦院長は「能登の民俗学的な知見や、文化人類学、社会学といった観点から知る必要があるのではないか」とさえ感じている。

新たな居場所「ごちゃらあと」

日々の外来や訪問診療をこなしながら、つまるところ自分の生まれ故郷とどうかかわっていくか。小浦院長は、その課題にも真正面から向き合う。地域の同じ開業医との話し合いで、震災後とくに「開業医は地域住民の一人であり、地域の皆さんのパートナーであり続けることが重要」との思いを、小浦院長は強くしている。そうした一助になればとの思いから、地域の人たちの居場所づくりにも取り組んでいる。

小浦院長の言葉を借りれば「診療だけではカバーしきれない、地域共生のための社会的処方箋としての場所」だ。その一つが、クリニックの隣りにある空き家を譲り受け、地域の人たちの新たな居場所として再生させる事業だ。

小浦院長は、復興の地域ケアを推進する組織として、一般社団法人「ごちゃ

らあと」を立ち上げている。再生する施設は、そのごちゃらあとが企画、運営するとして、日本財団などが出資する能登半島の復興支援補助事業に採択された。医療と生活支援を目的にした、地域の人たちの新たな居場所として2025年12月ごろの完成めざしている。「どんな居場所かは、地域の人たちが集まって考えればいいと思っています。写真展のような展示ができるコミュニティスペースでもいいですし、いろんな活動やイベントを行う場所であってほしい。そのためのベースキャンプに



副院長 小浦 詩

大河ドラマ「べらぼう～蔦重栄華乃夢噺～」 出演俳優・山中聡さんが福井の歴史を体感



4月15日、NHKで放送中の大河ドラマ「べらぼう～蔦重栄華乃夢噺～」で小浜藩医・杉田玄白役を演じた俳優、山中聡さんが小浜市を訪れた。

4月13日の放送で玄白が初登場する機会に福井県が招待し、玄白ゆかりの地である小浜城址、小浜西組、多田寺、若狭歴史博物館を訪問。同館では、学芸員の案内で玄白関連の史料などを見学した。

見学後は、「玄白は優しくて身分を問わず人のために生きた人だったと分かった」と話し、玄白の印象や魅力についてしみじみと語っていた。



mission

家元で理想を超える家づくり



理想のライフスタイルに
合わせた完璧な住まい

私たちは、お客様一人ひとりのライフスタイルに寄り添い、最適なデザインを提案します。家族の夢、趣味、日常の小さな瞬間までを考慮した、唯一無二の住まいを創り上げます。

人や環境にやさしい
高性能な家づくり

私たちの家は、地球環境に配慮した最新の技術を取り入れています。エネルギー効率の高い設計、再生可能エネルギーの活用、自然素材の選定など、持続可能な未来を見据えた家づくりを実現しています。

技術力の高い職人たちが
支える確かな品質

高い技術力を誇る熟練の職人たちが、細部にまでこだわりを持って施工します。長年の経験と確かな技術で、お客様の期待を超える住まいをお届けします。



お問合せ

詳細な情報やモデルハウスの見学をご希望の方は、お気軽にお問い合わせください。

<https://kanazawaiemoto.jp>

076-255-1201



株式会社家元 石川県金沢市問屋町 1-27-1

【建設業】石川県知事許可（般-1）第17091号
【一級建築士事務所】建築設計事務所 意匠庵 / 石川県知事許可 第13806号
【宅地建物取引業】Find.r / 石川県知事（1）第4223号



美しい人になる
家元の家。

令和6年能登半島地震、豪雨災害において、犠牲になられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、

被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

一日も早い復旧・復興を心よりお祈りいたします。

また、被災地における復旧・復興活動などにご尽力されているすべての方々に深く敬意を表します。

Special Thanks

【広告掲載企業】

株式会社 スギ薬局

スギメディカル株式会社

株式会社 DCP ソリューション

株式会社 石川コンピュータ・センター

みづほ工業株式会社

株式会社 ファイネス

ディレクト株式会社

株式会社 アメニティ

株式会社 クオンヘルスケア

丸文通商株式会社

株式会社 福光屋

株式会社 家元

【協賛企業】

料亭 つば甚

株式会社 富士タクシー

株式会社 キョー・エイ、株式会社 兼六、加賀種食品工業株式会社、室野硝子株式会社、株式会社 みづほ室内工業、株式会社 山崎、

有限会社 ソフト AZ、司法書士松永美里事務所、株式会社 岸グリーンサービス



『通いたくなる場所』をデザインする

DIRECT 株式会社 / DIRECT 建築設計事務所



医療情報誌 医心「ISHIN」 協力病院一覧

石川県

金沢大学附属病院	石川県済生会金沢病院	医療法人社団田谷会 田谷泌尿器科医院
金沢医科大学病院	独立行政法人地域医療機能推進機構 金沢病院	医療法人社団博友会 金沢西病院
石川県立中央病院	金沢聖霊総合病院	医療法人社団藤聖会
金沢市立病院	金沢赤十字病院	金沢メディカルステーション ヴィーク
石川県立こころの病院	独立行政法人国立病院機構 医王病院	国家公務員共済組合連合会 北陸病院
加賀市医療センター	独立行政法人国立病院機構 石川病院	小松ソフィア病院
公立河北中央病院	独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター	社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院
公立穴水総合病院	独立行政法人国立病院機構 七尾病院	社会医療法人財団董仙会 恵寿金沢病院
公立宇出津総合病院	社会福祉法人松原愛育会 石川療育センター	医療法人社団竜山会 金沢古府記念病院
公立つるぎ病院	医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院	医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院
公立能登総合病院	医療法人社団浅ノ川 金沢脳神経外科病院	特定医療法人扇翔会 南ヶ丘病院
公立羽咋病院	医療法人社団浅ノ川	特定医療法人社団勝木会
公立松任石川中央病院	心臓血管センター金沢循環器病院	やわたメディカルセンター
国民健康保険 小松市民病院	医療法人社団浅ノ川 千木病院	公益社団法人 石川勤労者医療協会
市立輪島病院	医療法人社団光仁会 木島病院	城北病院
珠洲市総合病院	医療法人社団慈豊会 久藤総合病院	医療法人社団博仁会 小池病院
町立富来病院	医療法人社団 下崎整形外科医院	
能美市立病院	医療法人社団橋会 整形外科米澤病院	

富山県

富山大学附属病院
富山県立中央病院
富山市立富山市民病院
あさひ総合病院
射水市民病院
かみいち総合病院
黒部市民病院
公立南砺中央病院
富山県リハビリテーション病院・こども支援センター
高岡市民病院
南砺市民病院
公立学校共済組合 北陸中央病院
独立行政法人国立病院機構 富山病院
独立行政法人地域医療機能推進機構 高岡ふしき病院
独立行政法人労働者健康安全機構 富山ろうさい病院
富山県済生会高岡病院
富山県済生会富山病院
富山赤十字病院
医療法人財団恵仁会 藤木病院
医療法人社団秋桜 丸川病院
医療法人社団尽誠会 野村病院
医療法人社団藤聖会 富山西総合病院
医療法人財団五省会 西能病院
富山県厚生農業協同組合連合会 高岡病院
富山県厚生農業協同組合連合会 滑川病院

福井県

福井大学医学部附属病院
福井県立病院
市立敦賀病院
独立行政法人国立病院機構 あわら病院
独立行政法人国立病院機構 敦賀医療センター
福井県済生会病院
独立行政法人地域医療機能推進機構 福井勝山総合病院
福井赤十字病院
医療法人福井心臓血管センター
福井循環器病院
医療法人厚生会 福井厚生病院





私たちは地域の皆様に 寄り添い、頼られる 薬剤師になります。

超高齢社会の中で、ドラッグストアに求められる機能、地域社会において果たすべき役割が拡大しています。その中で当社は、地域の皆様の『健康の維持・予防・未病』から『治療・看護・介護・終末期』まで、生涯に渡ってトータルなヘルスケアサポートを行います。

各種、医療機関、クリニックの処方箋応需

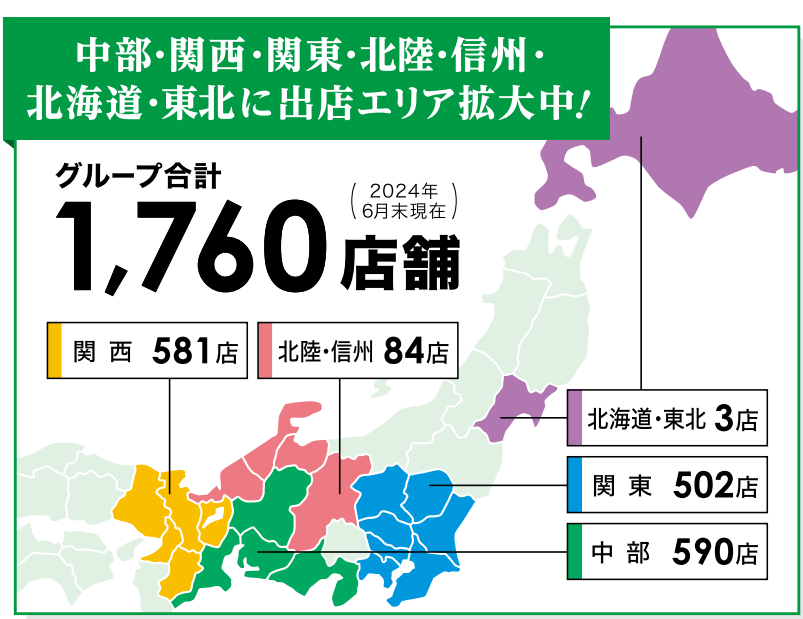
地域の健康維持・増進をサポートする 石川県庁前店

コミュニティスペース

血管年齢、筋肉量・脂肪量等がいつでも無料で測定可能。管理栄養士がカウンセリングします

介護ステーション

初めての介護の相談や介護用品の販売・レンタルまで福祉用具専門相談員が親切に対応します



■ 全社 売上高 (年間計)	7,444.8 億円	前期比 +11.5%
■ 調剤 売上高 (年間計)	1,587.8 億円	前期比 +11.5%
■ 処方箋 枚数 (年間計)	1,475.9 万枚	前期比 +14.3%
■ 訪問調剤 対応店舗数 (年間計)	601 店舗	前期比 +6.4%
■ 訪問調剤 患者数 (年間計)	189,109 名	前期比 +7.4%

2023年度実績

詳しくはHPをご覧ください。 <https://www.drug-sugi.co.jp/>

スギ薬局

検索

〒474-0011 愛知県大府市横根町新江62番地の1 TEL 0562-45-2700